

花江都

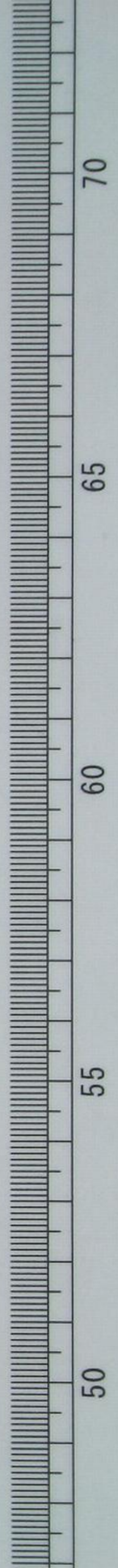
歌舞妓

年代記

二編

四

津田文庫  
文庫 1  
1767  
8





早稲大  
圖書印

源川第拾段

三  
代目  
松平  
忠良

三  
代目  
松平  
忠良  
後  
十  
段

三  
代目  
松平  
忠良  
後  
十  
段

010190605561



市川海老巻  
尾上菊之良

七月十八日  
佐々木三郎藤倉記

ぬき町

市川海

佐々木盛綱市川海老巻らき洲の岩村に  
あて兼五郎を殺せんとつ大出陣からしむる  
本名海川太兵衛助五郎勢り本名藤倉屋を  
大谷度次やゆきんと狂言の酔もぢかみ乃  
おしきめてあかかけ合のせりぬあり大でたを

又前の二隻目酒を菊中村代之幸助市村海老巻道行宮古浩文字大夫  
浄ろの二枚の看板續着みて二武掛物志るる古今臨しれ事故こに字と狂言  
耐代小款村お八の太鼓酒をの中入組ららとの評ん中村度ハ芳次やや  
道成寺古今評判兼次郎幸四郎大で故たあり霜月之日年号改室唇元辛未年  
霜月森田座沢村小伝次改府本勘弥と成森田府を立のる傳九町七之字二





介からごうくありとら又二役でもうけざるいふ事案事ども早くあら  
たけの度も居門を眺しやあらじと免るる。

を以て天文を考るに流星のちんとて宙際とるを怪む亦古今の大でれ南年寅  
あて大島り法華長兵衛助五郎たじ賣の出後馬れうふの奴まるを世燦助  
女房浅岡源川兼次郎又寅の兄ことゆりたじを火種へてをら洞をこぼすと亦  
大でれ一番目結字ある親王よ之甫古傳つ合冠白衣めて馬上の出立尤右よ幸四郎  
助五郎白張かをとる傳ばるを取と典の押出花中も長十郎古法眼の馬の画工  
の出下り平九郎反魂丹賣の奴居合の亦大でれ二を日佐世の源左傳門小長十郎  
灸と入る平九郎の肩先の疵を兼次郎に付しふ事よせて指を切血一厚の

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

成より兄弟の名をふめ有て後助五郎と敵とえたを亦大評判又あり市村座  
神中源氏 源之位頼政市村羽を傳つとせ長兵衛伝賣源の影おと免る  
源世又平の嵐七五郎平のや盛坂東之八上者合名度次めやめの前代と辰しめ  
お久保幸助万らうに尾上第五郎之森田座合権十二段 頼政よ七之郎徳早太傳九郎  
丹六法の西旭上徳五郎をうえ宗と源平ひやうえ辰十郎や盛中幼な傳門合妻  
吉次らひ音八めやめめ芳野八重相野はせん芳次めやめ盗賊之徳の傳門  
津山支那 津打門の 南教にせ評判は今年中ひ傳九郎才子中村傳は秋田府  
中より粉弁甚よ出る 皇曆二甲年 春中村座 龍輦商内考 二夜左傳つ祐長十郎  
祐成中平前助八百参 鬼王よ幸四郎月さよ市松のせえ袖の女兼次郎京の  
次郎助五郎二役の神坊ゆて袖の女よえや 附字よ殺され夜具の中より亡魂よて  
めらるる所怖じ 後川平九郎左甚五郎本名らさみ十内虎みれんがして虎うたを

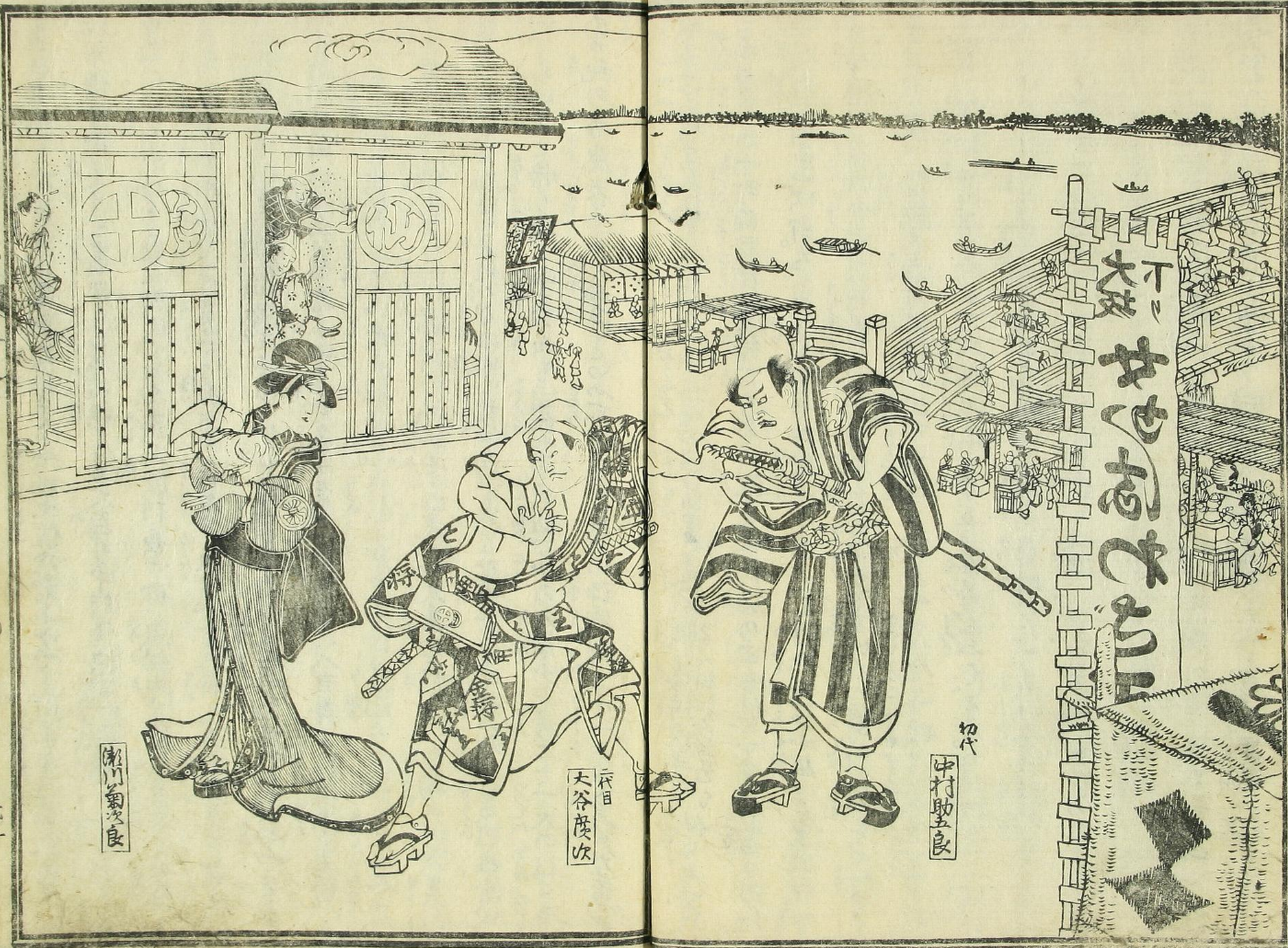
人形ふ換へ給ふる。而も魂入く我とひとく勅をす。だるふは人形ふあつ。まはる  
 次は五郎ふまへ。打擲ふ合左右のふにて文字を書る。内通の状の言訳を定み。な  
 忠臣といふ愁歎人ぐ。女房かまの市松作お死といふを公でむ。おまへ  
 豊竹頃。大を浄る。の合せて人形の身振此ふ。大にたへ。市村座の  
 左備門祐孫。海老。対。あ。亀。翁。万。ころ。の。羽。左。備。門。相。根。の。別。處。お。鶴。を。南。山。社。經  
 と。基。を。う。り。而。へ。対。家。茶。を。お。出。せ。れ。の。ゆ。え。盃。を。其。盤。の。せ。て。ま。ま。を。割  
 多。ゆ。え。そ。れ。で。敵。が。付。る。の。と。打。擲。と。衝。立。し。画。一。旭。や。の。香。の。れ。古。事。と。引。男。を  
 付。る。而。大。に。鬼。王。度。治。愛。深。明。王。へ。対。家。が。力。を。祈。り。命。を。天。力。と。成。し。後。は。海。老。翁  
 氣。清。めて。質。付。す。羽。左。備。門。盛。久。めて。十。郎。嵐。七。五。郎。愛。藤。の。對。面。大。南。大。法。の。と。ら  
 第五郎少将。奉。太。尊。軌。行。十。郎。か。ま。の。井。筒。の。お。房。代。の。一。寸。徳。信。備。度。及。園。七

九郎。備。七。五。郎。一。寸。八。寸。の。祝。音。と。盗。と。徳。信。備。が。ん。世。密。状。を。提。燈。の。火。で。焼。て。い。ぐ。ふ  
 打。擲。警。告。の。因。り。平。賀。を。存。故。徳。信。備。と。泥。は。合。九。郎。備。信。腹。を。刑。罰。考。と。り  
 出。し。而。大。評。判。大。南。の。此。付。り。や。五。郎。を。よ。ま。し。又。件。を。海。老。翁。子。子。し。て。市。川。社。經  
 今。嵐。龍。孫。名。前。足。く。森。田。座。の。書。舞。舞。と。う。二。友。祐。行。字。と。れ。十。郎。七。五。郎。對。家  
 幼。孫。銘。比。を。傳。九。郎。京。の。次。郎。辰。十。郎。女。房。お。宮。あ。や。り。大。坂。の。虎。八。を。相。堂。と。郎。音。八  
 ろ。ら。の。平。太。中。海。助。左。備。門。と。此。ま。市。村。座。と。坊。東。と。八。和。田。の。徳。若。丸。とい。見。の。口。を。く  
 者。元。服。と。朝。比。ま。の。初。役。心。中。村。座。高。と。評。判。し。て。ま。ま。の。事。あり。ゆ。え。二。を。人。目  
 事。あ。の。郎。女。の。件。同。二。心。め。大。結。花。邊。三。幅。別。浪。流。の。男。立。赤。裏。安。信。平。九。郎。吾。妻。仕。化  
 愼。隨。長。と。備。幸。四。郎。と。是。刑。の。扱。者。送。送。武。兵。衛。助。五。郎。大。坂。の。虎。あ。の。ま。者。下。人。七。備  
 長。十。郎。と。同。秋。諸。禮。樂。舞。安。給。の。負。任。幸。四。郎。字。任。助。五。郎。を。滿。途。と。郎。平。九。郎。賢。信  
 め。ら。や。の。家。系。及。郎。浪。人。者。と。心。中。て。死。で。れ。れ。と。教。し。助。五。郎。友。人。を。だ。市。松

八百蔵も七の道行海濱理富本豊前太夫へ次小幸四郎警梳兼次郎女松友結  
 の合大幸もゆきも大あり。霜月中村在代前も京四徳嵐和奇野下る。市村座へ  
 長十郎幸四郎す。中村富十郎り。度治場町へ入り務所頭へ。市村座日記 川津之町  
 度治又野五郎助五郎江間小四郎り。市松行幸也す。大出もよる朝も  
 七三万ころし。度治即改子の安富十郎文きたる國八百兵鍛冶釜の仁松傳九郎。  
 大結字賀神と甫右備阿叶の仁王度治助五郎大評判大入市村座見世尾上  
 第五郎元服して主役と成。梅樹入舞。子香太郎松本幸四郎子寿次郎子第五郎者  
 人実と西の兄弟也。空曆三酉年春中村座男達初買置我鬼王新左備度治祐孫小  
 助五郎。釘比き傳九郎。あづる山前富十郎祐成母七と対す。八百兵。かち系。甫右備阿  
 女房。辰辰十郎。ひさの坂のむね市松。津より。山前の人形を持。静はあ虎。牛。右  
 の人形を拍。芝居。づる。佐の川。子。あ。友人を。生。と。辰十郎。女。工。者。の。母。り。七。之。郎

政子。山前。子。あ。づる。山。前。富。十。郎。祐。成。母。七。と。対。す。八。百。兵。か。ち。系。甫。右。備。阿。女。房。辰。辰。十。郎。ひ。さ。の。坂。の。む。ね。市。松。津。よ。り。山。前。の。人。形。を。持。静。は。あ。虎。牛。右。の。人。形。を。拍。芝。居。づ。る。佐。の。川。子。あ。友人。を。生。と。辰。十。郎。女。工。者。の。母。り。七。之。郎  
 二丁目魚十町兩國橋髪結。雨らむの流き備。梅屋の由き備。子りり乳母。市松  
 傾城。奥。州。兼。次。郎。大。だ。れ。後。由。兵。備。貧。家。也。七。之。目。病。の。小。松。子。兼。次。郎。等  
 長吉。徳。川。吉。次。令。百。支。持。母。の。由。き。備。本。名。鬼。王。之。友。切。丸。の。質。外。へ。流。さ。と。け。さ。く  
 老。吉。を。殺。一。愁。歎。大。高。り。大。評。判。け。雨。女。四。人。目。由。て。京。席。子。娘。道。成。寺。富。十。郎。  
 大。高。り。春。狂。言。六。月。ま。で。大。入。大。高。此。年。より。五。月。曾。我。を。お。じ。する。五。月。狂。言。坂。田  
 ば。五。郎。令。り。火。の。車。五。兵。備。あ。て。度。治。と。龜。戸。藤。柳。の。た。て。あ。は。合。大。評。判。大。あ。り。ん  
 市。村。座。春。狂。言。忠。臣。の。ほ。ろ。忠。臣。の。ほ。ろ。我。を。仕。組。他。も。あ。て。由。良。之。助。小。長。十。郎。  
 ろ。ん。や。判。官。兼。五。郎。師。直。幸。四。郎。あ。り。ん。久。米。を。郎。不。入。り。て。お。が。盛。衰。記。松。次。松。也。門  
 幸。四。郎。持。四。郎。小。長。十。郎。重。忠。小。兼。五。郎。梶。原。源。太。龜。義。お。年。子。嵐。玉。拍。傾。城。橋。が。枝  
 久。米。を。郎。評。判。よ。し。七。月。十五。日。より。敵。討。巖。流。嶋。信。田。を。集。つ。と。月。本。出。者。助。の。二。中。く

忠臣蔵 巻之四



瀬川菊次良

二丁目  
大谷度次

初代  
中村助五良







元道の狂言後よさら切京の次郎と名ふ大工に二目満老翁。分身矢の根五郎の  
 一世代仕納め大高りもて府奉勤之郎矢の根翁とらふ土着をさる大詰助五郎ま  
 めむとやうて女房富十郎二役もがらけ甲と拵幽豊あて助五郎切を付ひ能の中へ  
 演るるのあり本名之保の谷めて魚樂男道成寺大雷後村十郎唐大十をらけ舟  
 定翁ふらうくの居のあり。実小孫よりの間者あて大勢後鱗形四てんを捕りて  
 門口の建立の鉤鐘を取巻と助五郎大らうのあて出る。浦老翁南都西大寺の愛徳明王の  
 靈像の(座)花母大評判に。二目目三月二日より富十郎石橋大高り。度次入るま源五郎  
 本名鬼王助五郎の男五郎の之五兵衛あて家根は合大高り。曲輪をがらけ  
 且も評判よく六月まで大入る。市村座春**泉常曾我橋**又後在傳つ祐孫あ幸四郎。  
 七郎の十郎電翁五郎肘家八百翁おひまよ六丈依の虎小嵐和う野まきの判官  
 小助在傳つ頼家公に従とて梅の本あての付られ若し心息も終るところち一公

十郎が方へ通し後をあらけ。あひの紙帳の上を渡るる市村座梅賢菴祐成竹本  
 長良大夫出語大工に二目目系を娘姉のおさるあ幸次郎。妹小いと久年を即ち  
 又九郎佐七あ幸五郎之。森田座**三鱗傾情鑑**小孫九代續の狂言也。小孫  
 時政と佐野の源後太二役助高をる士八翁在十郎。常世八重桐弓削大助ひら  
 音右傳つ女房早枝かん流之役者を人なり。市村座六月より**義経千本櫓**さまの  
 なく五月五日より**三代源氏祿通**藤原の度文章四郎坂田怪童丸に二目目坂東老之郎。  
 浪辺の綱市村兼義。卜部の季武八百翁。うま井の定光と八平井の保昌と菊五郎  
 源の頼光源川錦次源の頼近宗十郎。藤原の大孫助在傳つとらばれやと浦  
 又九郎。後兼の内侍兼治郎。ころん久年を即ち此宗武のわらじ和野の狂言  
 四天王皆あつて忠翁手柄のな毎あ天より見はひりの上へ降るる慈向る源の  
 四天王神匠大詰ま有大で中村座**根阿國歌舞**山本助助満老翁。埋忠徳彦度治。

目貫に於て之豊相子に於ての近江のち縁は富士郎松永弾正助五郎徳源正  
 廣次郎の跡の谷を奪合渡の城を車の上にて仕合ふ松永の父大及具大で凡市に座  
 八月より**由良義隆**人買山岡大夫と庄大夫と二子松本幸四郎佐渡の次郎沢村幸十郎  
 安寿姫源川吉次對王丸坂東孝と郎ゆのと上竹源川義次郎次子野浦形原を  
 小幸四郎岩木の判官館へ目見の所ゆり此所信吉所松本といふ油見世ゆり岩戸香  
 といふ新製白粉を賣給幸四郎は上披衣として富よゆり二目八又九郎之ゆり  
 馬ゆり之ゆり兼五郎幸四郎幸十郎詰合大評判之霜月中村座おゆり松本幸四郎  
 四代目市川團十郎と改名倅幸松本幸四郎と改む**三浦助時壽**岡崎の悪四郎  
 市川幸十郎字の盛ゆり中流之浦幸八牧の判官ゆり又九郎甲州明神の養院ゆり  
 牛若を入富ゆり突入ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり  
 投字盛ゆり首をぬるとすれ之田舎者ゆり油を煮出ゆり之ゆり之ゆり之ゆり之ゆり

加藤荒次郎助五郎と敵を討とんと是悟一打擲不違ゆり大で凡者合名九傳九郎  
 祐信富次辰十郎万こりに兼次郎本田の次郎中村七之郎小女おさる本名月さよ  
 富士郎油若孫二役和田の義盛ゆり田舎者のゆり牛若の只へ交とえて之ゆり  
 たゆり落しゆりまんとする之又九郎山木の判官ゆり切るるを多く投紅糸の柄ゆり  
 つけて引上る付ふ付雨降ゆりゆり狂言を二首下流ゆり又九郎ゆり付あゆり南を  
 おみゆりゆり大笑ゆり我こそ和田の小幸郎義盛と名乗ゆり大で凡者大助ゆり百  
 六の壽の亦馬ゆり幸四郎助五郎友人傳面を取一而大評判大ゆり**契情淺草鐘**  
 濱成小廣次竹成兼五郎友成羽左傳守屋の大信宗十郎蛇の道十兵衛小半五郎  
 てんどう丸八ハハのせんまの砂森代と松浦さよ姫よ久米幸所之系の仙人丹龜ゆり  
 森田座**鬼法眼指南**流木の之郎小鬼一法眼二役助る高助登坂津龍沢村音若  
 牛若丸よ市松波辺滝口井養こころ姫嵐和お母けのせん陸奥ゆりま若孫長田の太郎

ひの松山三十郎。之布きし。の西大でん。今年中村富十郎見芳沃あやめ大坂市ひら  
佐の八府を勤居り。いさう風のな地とまじ。七月十八日終。寂光の都へい。戒名  
観月院宗覺日心。ト。子方へ知。せ。室曆五亥年。春中村座。若緑錦曾我。二。者

左衛門尉若京北次郎團十郎。そ。れ。十。七。二。日。五。郎。八。百。義。後。河。の。次。郎。傳。九。郎。天。む。く  
徳。多。備。実。の。唐。士。の。い。ろ。く。王。多。又。九。郎。富。十。郎。せ。ん。ん。女。也。日。本。へ。次。流。ま。れ。人。買。の。為  
に。大。後。の。け。い。せ。ん。虎。と。旅。十。郎。と。惚。唐。音。は。く。は。説。下。大。で。ん。助。五。郎。和。後。内。之。信。の。後。父。お  
廻。り。香。入。と。男。立。足。法。多。備。と。旅。喧。嘩。を。仕。り。誤。説。文。を。書。せ。父。の。身。跡。と。引。合。親。と。尋  
取。大。後。内。辰。十。郎。が。書。る。蛤。の。一。字。を。と。り。名。多。合。と。あり。二。役。多。行。の。家。臣。大。は。次。郎

ひ。て。多。備。満。老。若。と。十。三。鐘。の。引。合。荒。率。團。十。郎。突。五。郎。狂。言。入。組。と。う。ら。と。の。評。判  
致。念。河。市。村。座。禮。愛。護。曾。我。近。江。八。幡。之。助。本。名。鬼。王。廣。治。工。者。左。衛。門。尉。五。郎。十。郎。母  
毎。五。郎。在。代。之。對。面。今。授。二。人。助。六。江。戸。は。ま。坂。本。梁。派。津。と。り。大。後。の。と。ら。は。く

総角のやく之兼を郎工者。う。家。多。此。の。意。久。よ。之。甫。右。衛。門。後。よ。十。郎。母。切。れ。実。の。鬼。王  
庄。司。左。衛。門。と。名。多。腹。切。の。朝。比。多。也。之。八。字。十。郎。実。惡。子。代。四。郎。多。備。二。役。す。け。経。妻。六。代  
は。安。あ。て。ま。子。大。房。を。あ。み。中。を。む。の。太。刀。天。の。唐。鞍。を。盗。じ。書。を。書。を。か。せ。藤。原。の。三。平  
中。五。郎。を。見。足。櫃。に。隠。し。経。を。殺。と。事。を。は。じ。月。さ。よ。嵐。和。の。舟。を。毒。酒。あ。て。殺。し。後。お  
す。け。経。境。よ。て。六。代。が。教。を。受。と。か。み。の。中。へ。羽。左。衛。門。鬼。女。の。教。を。受。と。下。怖。し。敵。を。玉。に  
法。前。の。亡。魂。と。さ。経。六。代。法。多。を。殺。し。経。を。水。と。り。て。と。い。ふ。羽。五。郎。と。り。刀。お。水  
を。掛。ん。じ。て。腫。病。を。打。擲。し。て。入。る。在。代。之。弱。五。郎。よ。て。大。威。德。明。王。を。結。ん。だ。鬼。王  
度。夜。法。多。も。力。と。祈。る。羽。左。衛。門。天。威。德。明。王。を。現。し。對。面。石。の。手。水。符。を。さ。し。上。さ。ぶ  
天。の。唐。鞍。の。手。を。取。人。信。と。大。で。ん。二。名。目。在。代。之。実。盛。娘。よ。て。父。の。敵。手。塚。の。太。郎  
を。討。ん。だ。契。情。孫。系。と。成。湯。髪。の。長。五。郎。と。別。條。撞。師。左。衛。門。は。五。郎。あ。て。貸。と。令  
の。勝。ぬ。故。長。五。郎。度。夜。あ。て。ま。ん。ぐ。打。擲。し。合。し。を。發。拵。け。取。取。人。め。り。也。と。あ。て。大。評。判。

の勝ぬ故長五郎度夜あてまんぐ打擲し合しを發拵け取取人めり也とあて大評判。

月代の矢毒をいじり互ふ本を各々合せひかく長五郎が小指を切り父まき盛平  
 手向け次は跡をいふあの手殺されどめを刺し長五郎が跡を捕つをさうり殺  
 してあの手が首を木着のは基錦のあけ方替りおきて朝日の跡陀を祓経より貫て  
 立列す下付ま市村座大くありて本林田座**其類相撰**二夜左衛門すけ経助高を  
 三助そこの十郎松山と十郎小茂太は村音を傳つ孫孫金のお計少は定へあや  
 さの川市松とあや味と和奇北中を引合八嶋お給あり五郎尉家并孫朝比奈  
 助高をいじり大評判も中村座六月より**江無手抄**土左衛門傳吉園十郎紅玉七  
 傳九郎五三條五郎八百孫かまや武兵衛之浦孫小姓吉と常せり女お枝芳沢五郎市  
 八百やお七山下合併け年令併 評判記よ 上 此位の役者なりしお七の評判よしくけ  
 教見せより 上 下次第おま身と同秋 **信長者柱** 七人の小太郎七人の家老世嗣の所  
 流者孫浮鳴弾いあて虚はる不薩源の兵庫よ又九郎敵役同士損修する工を以て

りの聳も止さるるまのいふ府そんら我りといふを取て殺まろり白眼と暮るの西  
 おふ仕人の有まのい大評判同園十郎小山判官辰十郎藤澤五郎母と判官と討  
 死その後再小山と忠長あるり知れて梓孫といふあやう面孫の似る故を袍をきせ  
 小山とあきるくといふるお形大南の富十郎小野のおづらして七小町のあり  
 二つ目松孫あや隆と助よ兼次郎目盛傳多浦助五郎并筒巴之丞よ兼十郎大根仕  
 合大評判大でた五月入りより市村座 **深縮助助嶋** 木津勘助度源園田記内と友平  
 とのあ奴兼五郎二平とこのとの三平は五郎友平女房おるま代三奴権平字十郎あり  
 都をち京久兼老郎此狂言評判らば **秋菅照相撰** 時平と浦右衛門女郎花大孫と助  
 よ龜孫武源孫兼五郎妹より同久兼を郎よりからを郎よと八すく孫を郎は五郎  
 菅孫相度次けまきるんも不入孫を霜月大坂立役山下又を郎なる教見世中村座  
**皇三勢源氏** 源之位を改よ七三平の惟茂辰十郎奴江戸平本名とせ長五郎のいへら

海老原三平の又次郎因十郎実の為朝と悟り、其政をさす故志うと火持の中へ以て、  
 引き添平者の二人の内一人願ても納らねといふ譬ありて、  
 其のりてまげ、打擲して為船と見え、  
 塩忍の二字を書き、額を引おろし、  
 志ざりてまげと、  
 嵐小六初りの所動、  
 童子傳九郎あられ、  
 先やうし、  
 あり、  
 かへ、  
 童子傳九郎あられ、  
 先やうし、  
 あり、  
 かへ、

の油を流して世をまじく暮るといふ、  
 切なる、  
 虚を、  
 大淨判大毒り、  
 といへ、  
 十六年、  
 大坂へ、  
 小宮元祖、  
 いへ、  
 祐信、

海老原三平

地記

市松やまの判官は五郎文定上人の八長田のを郎音を傳つて田の市市二代日  
坂東三郎大活判を傳つて武内宿禰兼次郎神切皇太后の見え大で同森田座と

大伴黒主常盛

大伴黒主常盛は高皇皇の助慈相文責の文書と母の万葉集は實乎世を

犯の義入松山十郎よる殺され義人を刺殺し夜光の玉を取万葉集とも存集ひを  
系図の折ら義人亡魂おとつて正法は義子志のめらぬがま後義守り。又九郎

坂園平少で愛憎病の間者と情の紀の名虎とて殺す大茂五代之郎弁義義人  
女房のせち嵐和舟母去くして行自之味縁と彈射義守そんるやなりの一曲大茂

室賀六郎平年

室賀六郎平年四月十八日より初日の下五日新杖本町より出火して支存を以新焼之間も

るく夢清出する二月廿日より中村盛壽三井曾我不破信在馬國十郎さや山と山下

又三郎鬼王野在傳つ海老井三役非人々清也山が草履の鼻緒をたててその  
さうしてはたを打毬なるゆの鼻心ひわきのある中の方ゆ志野の名を山と

遠慮とるは親がふつがゆとてと草履打大で二もん目軍十郎之猪。又三郎は七  
其比の為首ふ一死ぬるをまの高助が紋下①の字を捨く②あ成けを

高助寂光の都へ至る。高龍院一得日助信士浅井新寺町長園寺小印を独を  
二月十一日より市村府梅葉三葉を五人男八令文七本名六弟村家市松極下子を傳つ

十郎祐成龜島安の平少傳つ。京の次郎兼五郎雷庄九郎悪七少傳兼清助五郎  
鬼王新在傳つて布袋市を傳つて度次鯨鯨いえ大島り五人男一人目工藤の館へ

年婚の如上下にて年玉物のせりぬ。大浮判八月より兼五郎山田の二郎もて僕の武帝  
の鯉のかけお抜出する水は合中役者後村は十郎大谷國義中村七五郎よろのや又義

大谷力義坂田佐十郎そ対大勢紅縹付揃花中なるたて有慈摩申大島六月まで  
大入中村府四月より長生殿常操大江のを傳つ村門も白の猿の精をひき泰の馬を助

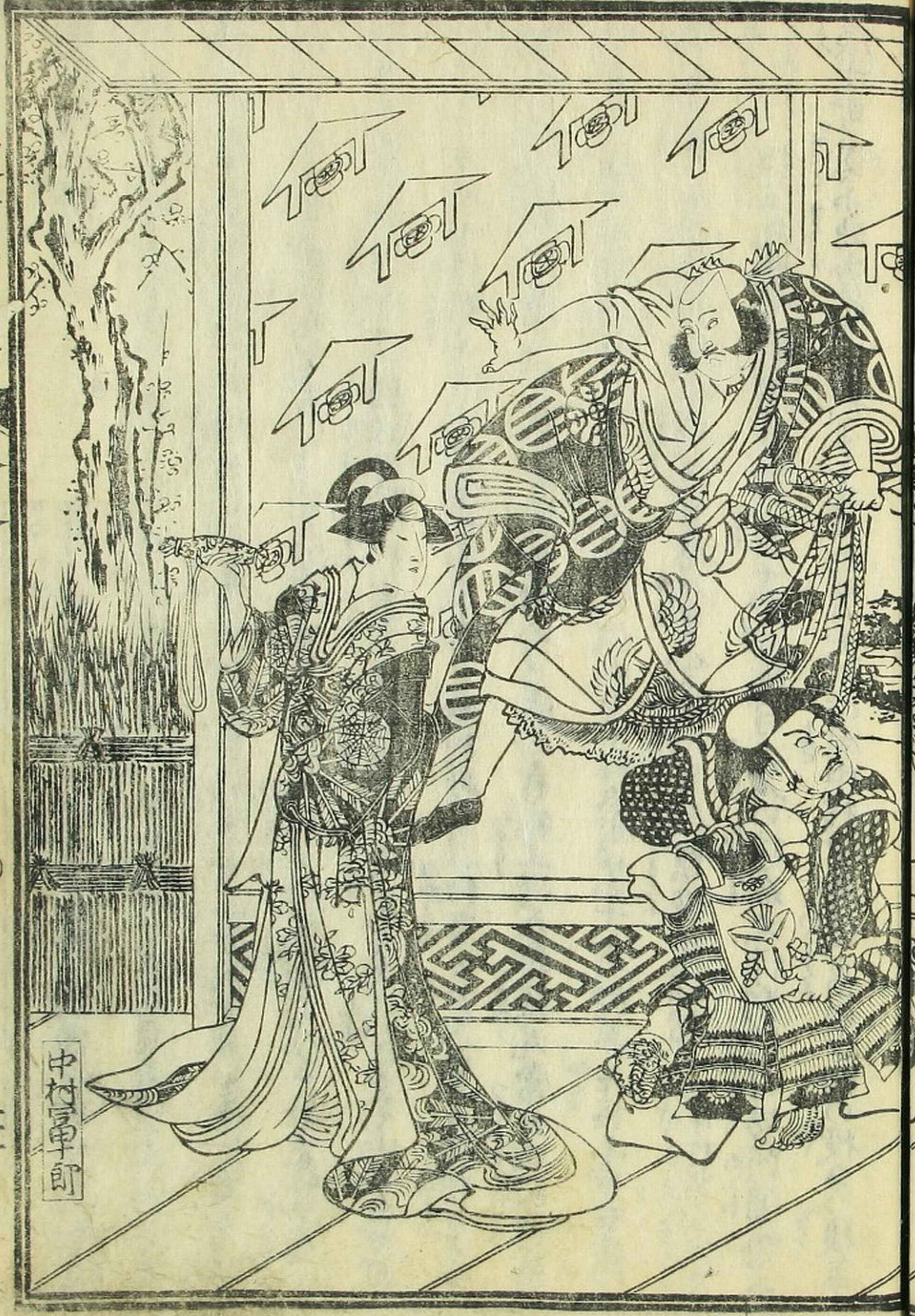
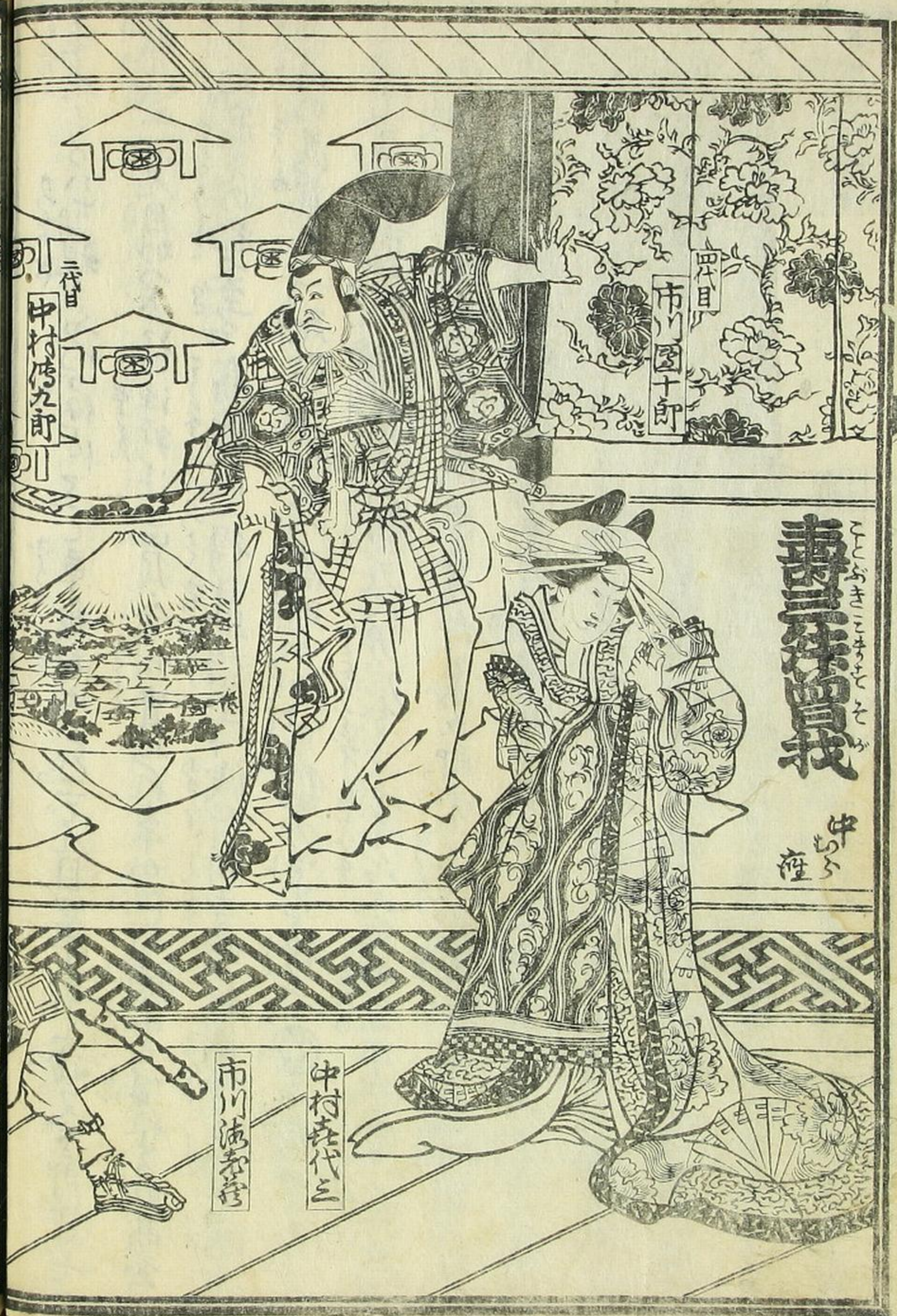
長生殿常操大江のを傳つ村門も白の猿の精をひき泰の馬を助

長生殿常操大江のを傳つ村門も白の猿の精をひき泰の馬を助



毒草屋敷

中  
澄



傳九郎。二條の嘉門又太郎雲井は芳富十郎大堂寺田畑之助國十郎。女むね太刀  
 終失よりのて身を中し。尋よと浦老を嵯峨の神巻を譲る。二む目あげまれのすは六  
 國十郎。盤のま久宇十郎傾城のむ巻を代と白浜賣七とかんる。門清之甫。初  
 か月廿平庄九郎。何も大てん。二む目大活めこの推令。他藤田又八。八百系女馬士  
 お富。お富十郎。洋溜理鈴。曙。或園札。富本。豊前。椽。の。女。又。夫。大。和。ま。山。下。又。老。郎  
 かむやの老郎七。評判より。じ。ご。は。で。の。大。入。り。中。村。在。七。月。狂。言。と。不。入。り。八。月。初。日。より  
 菅原の操。か。幸。く。中。村。七。同。雷。神。の。り。浦。老。を。梅。王。傳。九。郎。傳。九。郎。常。世。武。於。浦。老。  
 か。く。老。二。役。又。老。郎。白。老。又。九。郎。於。田。在。代。と。老。郎。宗。十。郎。村。平。老。は。甫。右。浦。門  
 梅。王。女。房。老。芳。次。五。郎。市。橋。丸。女。房。八。字。令。他。判。官。代。照。國。中。村。傳。老。  
 市。川。八。百。系。松。王。丸。國。十。郎。女。房。子。代。富。十。郎。四。辰。目。女。人。の。愁。歎。大。評。判。法。性。坊。阿。闍。梨。お  
 辰。十。郎。傳。老。中。評。判。より。大。と。あ。り。大。入。け。付。中。村。中。務。記。富。の。十。代。の。役。の。後。年

之。津。の。上。と。な。れ。大。立。者。と。成。見。世。市。相。座。歸。花。金。主。櫻。派。平。兵。衛。宗。清。度。次。  
 清。盛。の。甫。老。を。出。者。盛。を。助。五。郎。頼。朝。が。首。討。と。す。る。正。入。澤。田。次。郎。改。武。升。新  
 背。出。せ。り。凶。有。年。非。是。へ。行。き。盛。を。小。擧。げ。ら。れ。女。人。と。も。首。討。と。す。る。所。へ。又  
 老。く。と。な。す。掛。流。谷。の。金。王。正。俊。市。川。海。老。を。五。郎。角。前。發。大。老。刀。老。袍。の。出。と  
 い。ひ。六。十。六。老。と。な。す。と。大。高。門。行。く。ま。入。道。大。合。力。を。首。引。拔。頼。朝。藤。田。女。人。が。助。け  
 産。衣。の。鑑。を。と。り。大。活。漫。を。度。次。呂。布。の。助。五。郎。孔。明。の。羽。衣。傳。の。國。羽。海。老。を  
 大。老。に。瀨。川。吉。次。を。二。代。目。系。之。忠。と。改。名。し。七。白。拍。子。連。理。と。夜。合。極。道。成。寺。の。正。代。と。勤  
 座。本。羽。衣。傳。の。子。な。女。の。ゆ。て。は。上。を。速。る。大。高。り。中。村。座。將。門。裝。束。榎。加。友。兵。衛。の。村  
 重。光。國。十。郎。朱。雀。天。皇。甫。在。浦。門。之。種。の。神。器。を。春。老。を。官。女。を。老。殺。ま。と。す。る。亦。暫  
 少。の。出。し。次。に。今。代。の。欲。を。後。系。の。忠。文。執。見。世。七。役。の。内。に。て。炭。賣。五。郎。八。の。役。目。足  
 の。合。を。傳。の。五。郎。奉。名。純。友。と。出。合。し。が。老。を。い。か。げ。万。葉。扇。此。扇。で。仰。ぐ。也。う。る。日本



度次競遊口あて影へ出荒子の雨大評判吉次を二代目兼之悪ふなせりもみな  
仙魚の舟滅く糸児童の七百余歳も後見とどひもあそ国霜月をるや常の  
風小刹那も付ど樂し酒のよろ碎小物丁へ出られはし頓死とい夢や

功德院淵譽水阿仙魚居士 宝曆六丙子年閏十月十三日 本所押上大雲寺

宝曆七年 春中村座 日本塘鷄音曹我物ぶごを即幸名悪七兵衛系清園十郎清水寺の

清去五郎様姫嵐富之助小を新の越慕して指と喰切破戒の偽と成故刺殺姫を  
助れ場大で死非人工者第五郎 毘達法降七かの五郎市松盲人を敵を討ちあふ  
物さの技をよくらうふの二役祐経娘おいねあて合度げくそ石橋の葬の内殺れ  
祐経より生贖の介一壽を付字書あふ早登り眼明て対面六朝ひさあて車門の荒  
事あり十郎七と分二と目角力取八ッ橋よ八戸田川よ松十郎 變情はと富十郎  
依此の次郎在備門尾上兼五郎とんめ園十郎 守佐兵の二郎とて實工者勉めゆの

場大で死八ッ橋亡魂富十郎 清去亡魂女姿園十郎 火神の中よりあ方同一とら  
二人浅間浄福理文字太夫あてとがれ十郎七とふ能り同く 園十郎清去の骸あり

大あふ十郎井場の十をあて取あて富十郎あてや者柳のたてゆまも大とあてり  
此妻の評判より 齧上上吉市川園十郎 市村座 深瀬綱切音曹我 工者左備門祐経

字なをらからう賣本名かけ清海を我そがの十郎船ひな二や。まはしのふ能り能  
五郎村々弁我あてをの姫合船月さよ萩野八守相園之助助五郎祐経妹とよら

音左備門鬼王度治後重の井村左備門女馬士志移ちよれおと兼之巫友人て仙魚  
追告の愁歎見物袖を絞る 森田座の浄福理布引一谷 鬼一在原系園物草太郎

まの右に辰目四段目はし 傳九郎宗十郎 和吉野小傳次林泳あて真行と市村座  
二月廿日より大坂下で中村歌右備門五出才二と目七章四郎墓の術評らんはし

六月二日大谷度次終る 圓心院泰然日了信士 深川浄心寺中 正行院よ塚と残を

七月まづか狂言まじ小助五郎。度次かま位牌いちを持もてひより相撲まがのち愁あ歎ん返名へんをいとなむお教おえせ

中村座なかつら若者わかし凱陣がいじん鳥とりあんのいのおえん國十郎くにじゅうらう頼朝よりとものあ五郎ごらう二にやの佐さ木きのい郎らう同どう

四郎しろうよの八百やっぴやく若わかし梶かぢ原はら外そと若わかしうらのいのお若わかし存ぞん代だいととるる平へい若わかし五郎ごらうしのげん足あし跡あと

三八さんぱち若わかしのいのお富とみ之の助すけ盛もり久ひさ女によ房ぼう有あ羽は小こ和わ身み船ふね舵かじがのりの太た刀たとと取と久ひささんとと魂たま魄ぱく

月つきの前のとと放はなりの頼朝よりとも小こ迫せまけき氣きの前のとと格かく氣きゆのととひひももととななるるてて若わかしびびややるる

卒そつ小こ太た刀たとと奈な桑そうかかええかかののああままのの柄へらああすするる宙ちゆうとと若わかしびび行ゆくく野の業わざ大だい若わかしううととんんりり

高たか顔かほ見み世よ浮う判はん記き上かみ上かみ市いち川かわ武ぶ十じゅう郎らう此こゝ夜よ津つ川かわ錦にしん次じ三さん升しやうのの門かど若わかしとと成なてて市いち川かわ

武ぶ十じゅう郎らうとと改かへ名な年ねんのの若わかし一いつのの荒あらい事こと仕し成なりり成なりり若わかし見み世よのの備ひのの冠かん者しやののりりよよのの役やく

二ふたととんん目めああ若わかしがが見みらられれととやや助すけ八はちとと親おや子こ之の入いりりのの細こううとと入い込こみみをを終はららふふ而しか而しか大夫だいふ若わかし

ととんんとともも亦また入い登のぼりりれれ一いつ國くに若わかしははららちち若わかしままるる此こゝととびびのの仕し内うち大だいととももととありり市いち村むら座ざ

松まつ君きみ座ざ若わかし者しや廓くわく吉きち佐さ大だい臣しん羽は左さ衛ゑ門もんととははのの兵へい備びゆゆらら実じつのの法はふ路ろののととののいいのの少せう助すけ五ご郎らう

左さ京きやうのの進しんまま尉ゑい七しち之の若わかし若わかしのの廣ひろ嗣つぎとと浦うら人ひと福ふく善ぜん清せいとと歌うた石いし傳でん二ふた役やく中ちゆう將せう姫ひめ若わかし若わかし令れい化け

けけ之の備ひ字じ十じゅう郎らう又また系けいのの八はち前ぜん喜き十じゅう郎らう曼まん陀だ院いん九く市し松まつ次じ汲く松まつ風ふう小こ富とみ十じゅう郎らう左さをを柳やなぎりり

之の左さ備ひのの音ね八はち左さ迂う人ひと平へい兵へい備び字じ中ちゆう納なつ言げん行ぎやう平へい若わかし若わかし之の人ひと淨じやうりり松まつ似に候こう男おとこ姿すがた

常とこ盤ばん津つ文ぶん字じ太たい夫ふ若わかし若わかし之の正せい化け大だい商しやうのの森もり田でん座ざ勢せい智ち和わ田でん合がっ戦せん朝あさ比ひ若わかし若わかしのの二ふた役やく古こ郡ぐん

新あらた左さ備ひ門もんはは信のぶ九く郎らうしののの小こ次じ郎らう辰たつみ十じゅう郎らう和わ田でんのの左さ備ひのの甫ふ左さ備ひのの城じやうのの太たい郎らう小こ音ね左さ備ひ門もん

之の浦うらのの荒あらい次じ郎らう傳でん若わかし若わかしはは盛もり娘むすめ野の分ぶん八はちとと相あ令れい賣う吉きち次じ山さん下げ又また若わかし若わかし小こ次じ郎らう若わかし若わかし有あ羽は

又また左さ備ひ若わかし若わかしととててんん

歌舞妓年代記卷之四 畢

